

第5章 優先プロジェクト

第5章 優先プロジェクト

5.1 はじめに

前の章までに、調査対象地域の開発可能性および開発阻害要因を解析し、農業開発計画のマスタープランの策定について述べた。マスタープランは、セクター別の24の計画およびそのうちのいくつかを統合した1の統合計画からなっている。

本章では、マスタープランにおけるセクター別計画及びそれらの統合プロジェクトの中から選定された優先順位の高いプロジェクト/地区について行ったF/Sについて述べる。F/Sの対象となる優先プロジェクト/地区として以下のものを選定した。

1. 小規模ダイクシステム改修計画
2. 米の生産流通改善計画

5.2 小規模ダイクシステム改修計画

小規模ダイクシステム改修計画は、大規模で複雑な構造物を含まない。しかし地域の協力と参加が必要となる輪番制という新しいシステムの導入が計画されており、そのため社会環境への十分な影響評価と受益者による計画の十分な理解が必要である。そのためF/Sの準備段階において、合意形成に焦点をあてた社会調査の重要性が強調された。

調査地域に関しては、輪番制の評価のためには、比較的規模の大きい地域を対象として検討する必要があり、また、中湛水地区と浅湛水地区では地区特性が大きく違うため、ゾーンBおよびゾーンCより1地区ずつ選定しF/Sの手法を示す必要があった。そこで、マスタープランで提案された実施計画に基づき、初期グループの中から選定した。硫酸塩土壌の分布状況、現況の農民組織の成熟度、既存ダイクの配置状況等を勘案して、ゾーンBについてはブロックを、ゾーンCについてはブロックを選定し、全体として合計約4万1千haを対象とした。

しかし、対象範囲を大きくした場合に、対象農家も多くなるため、所与の時間制約の中で、社会的妥当性の判定が困難となると考えられ、合意形成に焦点を当てた社会調査は小さい地域を対象として実施すべきであると判断された。

そのため、本計画の調査地域は2段階に分けるものとした。すなわち、面積約41,000haのPre-F/S地域と2,000haのF/S地域である。前者では、合意形成にかかわる調査以外はすべてF/Sレベルで行うものとして、F/S地域では合意形成にのみ焦点を当て調査を実施するものとした。



5.3 米の生産流通改善計画

地区内における米の流通の現況は、生産段階（農民）、流通段階（小規模買付業者）、販売段階（加工業者）の3段階に分けられ、価格の形成は主に販売段階の事情により決定されている。また米の品質については、種子の段階から最終加工段階まで全過程における改善が不可欠である。

したがって、米の生産流通改善策は、生産段階のみならず、流通段階および販売段階に対し何らかの対策を講じることが必要である。加えて、これらに対する活動は、技術的サポートとならんで、組織形成への支援も必要である。

また生産、流通、販売の各段階に関して策定された個々のプロジェクトは、その効果がより有効に発揮されるために、これらプロジェクト/プログラム群を有機的に統合して一つのプロジェクトとして計画実施することが重要である。

以上の観点から、米の生産段階から流通・加工の段階を通じる総合的な改善計画の策定にかかるF/Sを行う。その主たる内容は計画の実現性と重要性を勘案して下記のとおりとする。

- 1) 種子の生産・供給システム
- 2) 農民組織活動を通じて、生産者の収穫後処理改善・集出荷の合理化
- 3) 生産者、流通・加工業者に対する訓練・普及